



## ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、当社は、第33期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）を終了いたしました。本冊子では、当社グループの事業および当社グループを取り巻く環境、当社グループの取り組み状況などにつきまして、分かりやすくご説明いたします。

## 当社を取り巻く環境

当社グループの属する光通信市場においては、スマートフォン等の流行を背景として、携帯通信事業者が、無線基地局への設備増強に投資を重点的に振り分けました。また、データ通信量の予想以上の増加を前に、基幹網・都市間網で予定されていた次世代技術をスキップし、次次世代技術の実現まで設備投資を抑制する動きとなっています。

このような事情を背景として、当社光部品関連事業におきましては、主力である基幹網・都市間網向け既存製品の売上が減少いたしました。当社としましては、次次世代技術製品を一日も早く市場に投入すべく開発に注力しております。

光部品市場全体では製造数量が増加しており、光部品生産工程向けの光測定器製品が大きく売上を伸ばしましたが、一方で、長引く高水準の円高の影響と、顧客からの強いコストダウン要求があり、利益が押し下げられております。当社が取り組む新規事業であるOCT（Optical Coherence Tomography 光干渉断層画像）事業につきましては、顧客の事情による開発受託案件の来期へのずれ込み等があり、ほぼ横ばいとなっております。

システム・ソリューション関連事業については、PC遠隔操作ツールの企業向け新製品が好評であり、売上高を伸ばしました。

## 業績ハイライト

|       |           |
|-------|-----------|
| 売上高   | 2,510 百万円 |
| 営業利益  | △108 百万円  |
| 経常利益  | △110 百万円  |
| 当期純利益 | 104 百万円   |

## 業績改善への取り組み

当社グループでは、単価下落、円高による利益減少に打ち勝つため、一層の原価低減活動、経費削減活動に取り組みました。しかしながら、前述のような事情を背景として、光部品関連事業における受注の減少が止まらず、月に3日程度の休業を継続すると共に、役員報酬の追加引下げを行いました。

当社の取締役は、責任の所在を明らかにするため、2012年2月に、打ち切り支給済みの取締役退職慰労金を返上いたしました。この結果、138百万円の特別利益を計上し、当期純利益を黒字といたしました。

当社グループを取り巻く市場環境は、まだまだ厳しい状況にありますが、一日も早く、新製品を市場に投入すべく、開発に注力し、業績回復に努めてまいります。

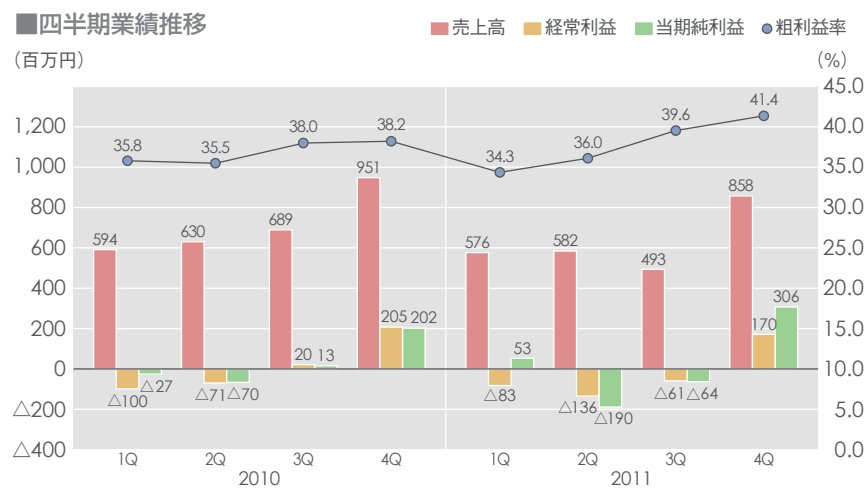
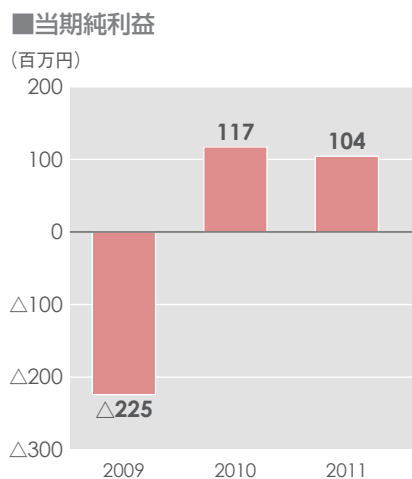
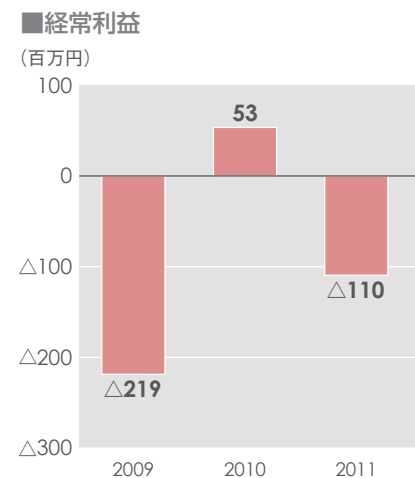
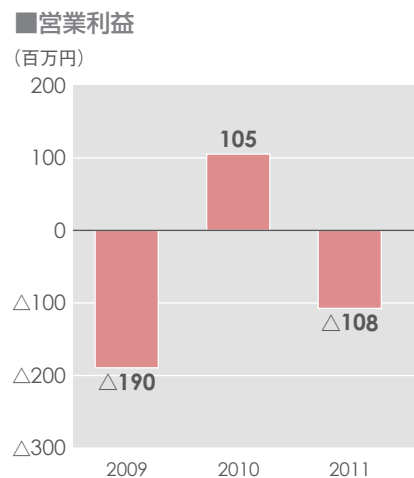
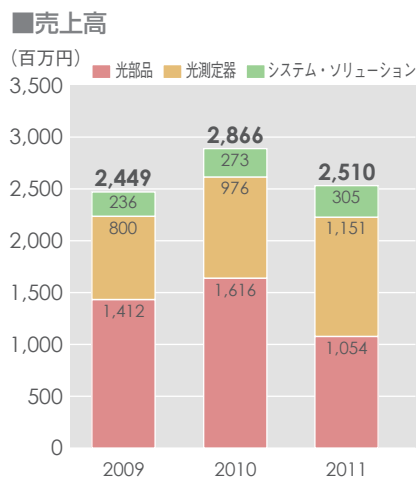
当社グループは、光技術のパイオニアとして、今後も新しい技術に果敢に挑戦し、力強い成長を志向してまいります。株主の皆様におかれましても、一層のご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 業績の概況と推移

2009年度から2011年度まで（四半期業績については2010年度から2011年度）の当社グループの業績推移をグラフで表示すると、それぞれ以下の通りとなります。2011年度においては、光部品関連事業が大幅減収となりましたが、光測定器関連事業とシステム・ソリューション関連事業においては、増収となっております。

2011年度の営業利益・経常利益につきましては、売上高の減少の影響から赤字となりましたが、特別利益の発生により当期純利益は黒字となっております。



## 事業別の状況

### 光部品関連事業

世界的なスマートフォン等の流行に起因するデータ通信量増大に伴い、携帯電話無線基地局への投資が膨らむ一方で、基幹網・都市間網に関しては、次世代技術の確立まで投資を抑える動きとなりました。その結果、基幹網・都市間網を中心に事業展開する当社では光部品製品の売上高が減少しました。

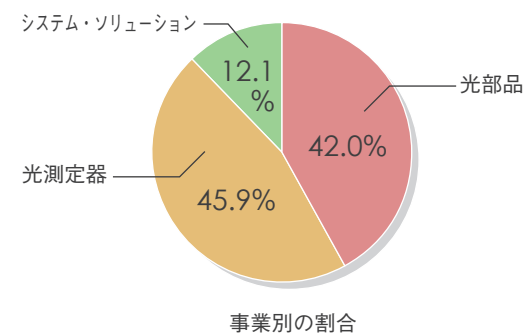
### 光測定器関連事業

高速大容量通信網の増強、新興国向け通信光化対応のため、中国を中心として光部品の生産量が増加しております。当社の製造販売する生産工程向け光測定器製品が売上を伸ばしました。

OCT（Optical Coherence Tomography 光干渉断層画像）事業につきましては、新たな分野における製品化を目的とした受託開発案件を軸とした活動が進んでおります。

### システム・ソリューション事業

当社の販売するPC遠隔サポートツールは、優れた機能と高い利便性により、同種のソフトウェア・サービスのなかで高い国内シェアを誇っております。また、新たに販売を開始したPC遠隔操作ツールも好評であり、多くの引き合いを頂いております。



## 当社主要事業のご紹介

当社は光通信に必須の部品を扱う「光部品関連事業」と、光部品開発のための重要な装置である測定器・光源を扱う「光測定器関連事業」、光の性質を応用し、非破壊断層画像を取得するシステムを扱う「OCT事業」（財務報告の事業別セグメントにおいては「光測定器関連事業」に分類されております。）、さらに光ネットワークが作り出すブロードバンド環境を利用したソフトウェアを販売する「システム・ソリューション事業」を事業の柱としております。

### ■光部品関連事業

光通信に必須の部品を開発し、製造販売する事業です。

光通信は、電気通信にはない優れた性質をたくさん備えています。しかしながら、光には電気にはない「光固有の性質」もあります。光を制御し、有効に利用するためには今までにない

新しい技術が必要です。当社では、光通信には必要不可欠な光部品を数多く開発しております。



MEMSアッテネータ（一部）

光は電気をはるかにしのぐ大量の情報を送ることができるため、これからも通信における主役の座を維持し続けるでしょう。しかし、光ファイバが製品化されてからまだ40年しか経っておらず、光の制御にはまだまだ多くの課題が残されています。



WSS-100（波長選択スイッチ）

santecは、より高度な光の制御技術を生み出し、それを高速・大容量・安全・安心な通信に生かしていくことを目指して日々研究を重ねています。

### ■システム・ソリューション関連事業

ブロードバンド環境を有効に利用したソフトウェアなどを販売する事業です。主な製品として「RSUp (R) (アール・エス・アップ)」があります。これは、インターネットを介したサポート用画面共有ソフトウェアであり、主にパソコンの使用方法などについての遠隔サポートを行うために使われます。パソコンメーカーのカスタマーサポートセンターを中心に、日本でNo.1の導入実績があります。



### ■光測定器関連事業

主に光通信関連の研究開発や生産活動に必須のツールを開発、製造販売する事業です。

光通信関連の研究開発には、様々な強度・様々な波長の光を実際に通すことで実験を重ねる必要があります。当社の「波長可変光源」製品は、主に光通信に用いられる波長帯で、指定の波長の光を発生させる光源装置です。

また、指定した波長の光だけを取り出す製品もあります。「波長可変フィルタ」です。

これらの製品は、主に、光通信関連企業や、大学・研究機関などに納入されます。研究開発や製造工程などに必須のツールであり、光部品の開発や製造が活発になるにつれ、引き合い、受注が増加してきています。



TSL-510（波長可変レーザー）



光部品製造工程で活躍する光測定器

2011年度には、iPadやアンドロイドタブレットから事務所のPCを操作できる、企業向けPC遠隔操作ツール「RemoteView」を発売し、好評を頂いております。

また、光ファイバを使ってHDTVハイビジョンディスプレイの映像・音声信号を簡単に最長300m迄、延長配線することができるHDMI光エクステンダー（延長器）を販売するほか、光ファイバを利用して建築物や大型設備などの温度をきめ細かく管理する統合温度監視システムを取り扱っています。

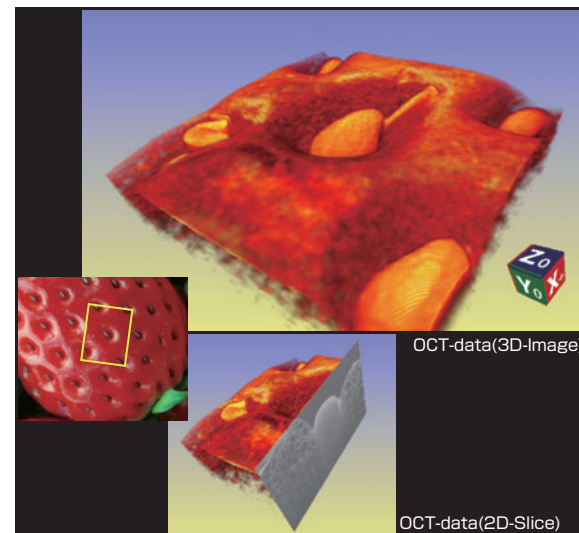
### ■OCT関連事業

光測定器関連事業、光部品関連事業の技術を発展させ、光コヒーレンストモグラフィ（Optical Coherence Tomography: OCT）＝光の干渉効果を利用し、人体などの断層画像取得を可能にする技術を用いた製品を製造販売する事業です。

OCTは、90年代前半に発明され、レントゲンと違って放射線の被曝がなく、しかも高精細な画像を得られるため、眼科などで緑内障や加齢黄斑変性などの診断に用いられております。これら第一世代のOCTは画像の質には一定の制約がありましたが、santecでは新しい手法で次世代OCTを世界で初めて商品化することに成功しました。

2009年12月には、その功績が認められ、第23回中日産業技術賞（中日新聞社主催、経済産業省後援）において、中日新聞社賞を受賞いたしました。

新世代OCTは商用化が始まったばかりの技術であり、解決すべき課題がたくさんあります。しかしながら、今まで断層を見ることができなかった分野での応用が可能とあって、医療分野のみならず工業分野からも多くの企業様の引き合いをいただいております。



OCTで取得したイチゴの断層画像

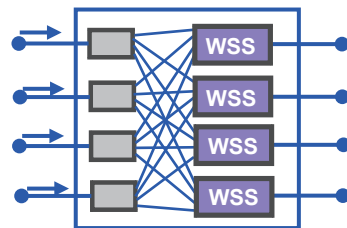
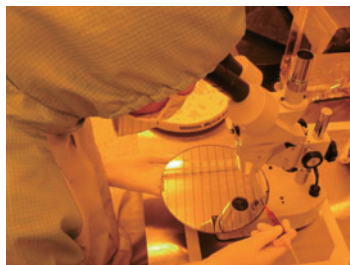


## トピックス

### ■総務省「PREDICT」事業から研究を受託

総務省の実施する「ICTグリーンイノベーション推進事業（「PREDICT」）」の平成23年度研究課題公募におきまして、当社が提案・応募しておりました、「フレキシブル・グリッド型光ノードシステムの研究開発」が採択され、同省より研究の委託を受けました。東海地方初となる快挙です。

「PREDICT」は、CO<sub>2</sub>排出削減、省エネルギーに貢献する情報通信技術（ICT）分野のイノベーションを創出し、研究開発を促進していくことを目的とした資金制度であり、当社では、本研究を通じて、当社の技術の向上に努めると同時に、環境保全の側面でも社会に貢献してまいりたいと考えております。



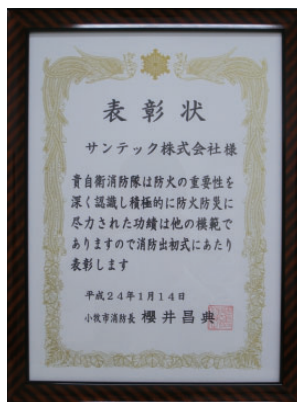
WSS:波長選択光スイッチ

当社の液晶技術LCOS製造工程とWSS型光ノードシステム

### ■地域貢献活動

当社では、日頃から防災への備えとして自衛消防隊を組織し、全社員で日常の火元点検、消火・放水訓練や避難訓練等の定期的な活動に取り組んでまいりました。この度、その功績が認められ、小牧市消防本部より毎年1社のみ選ばれる優秀消防隊として、年初の消防出初式において当社の消防隊が表彰されました。これからは防災の重要性を認識し、模範となる消防隊であり続けられるよう努力してまいります。

また、毎年行っている地域の皆様、周辺の企業様との合同清掃活動も実施いたしました。これからもこのような地域社会のための活動を継続してまいりたいと考えております。



小牧市消防本部からの表彰状



地域の皆様との合同清掃活動

## 会社概要

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 社名     | 名：santec株式会社（証券コード6777） |
| 住所     | 所：愛知県小牧市大草年上坂5823番地     |
| 資本金    | 金：4,978百万円              |
| 設立     | 立：1979年8月25日            |
| 従業員    | 員：132名（2012年3月31日現在）    |
| HPアドレス | ス：www.santec.com/jp     |

## 株主メモ

|         |                                                                          |
|---------|--------------------------------------------------------------------------|
| 事業年度    | 度：4月1日から翌年3月31日まで                                                        |
| 剰余金の配当  | 当：期末配当基準日 3月31日<br>中間配当基準日 9月30日                                         |
| 公告方法    | 法：電子公告<br>当社ホームページに掲載します。ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 株主名簿管理人 | 人：三井住友信託銀行株式会社<br>ご照会先：三井住友信託銀行証券代行部<br>フリーダイヤル：0120-782-031             |

### 株式に関するご照会先について

- 住所変更、単元未満株式の買取等について  
株主様の口座のある証券会社にお申し出下さい。  
尚、特別口座の株主様は、三井住友信託銀行までお申し出下さい。
- 未払配当金の支払いについて  
三井住友信託銀行までお申し出下さい。

### 株主総会の決議及び議決権行使結果について

当社は株主総会における決議内容及び議決権行使の結果について、当社ホームページでお知らせします。

URL: <http://www.santec.com/jp/ir/shareholders>

